

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.4 2月号

東京日本橋で伝統打刃物の職人技を披露！

はなやかな東京のど真ん中日本橋。越後鍛冶のプライドと技術を賭けて、2月24日25日の二日間、にいがた館 NICO プラザで「職人の世界展」を開催。もちろん匠会として初めての都心での出展である。

伝統的な打刃物が都会のユーザーの心をつかむことができるかどうか、期待と不安を胸に乗り込んだ新幹線。当日は太平洋側の穏やかな陽射しが、匠会一行を出迎えた。



ホンモノの鍛冶職人のわざに驚嘆の声

「お手持ちの包丁を職人が研いで切れ味をよみがえらせます」…扉が開くのを待って、さっそく二人連れの奥さんが来場。そのあと「自分で刃物を研いでいるがぜひ正しい研ぎ方を知りたい」という高齢の男性が。ガラス越しの店内で、法被姿の職人がなにやら実演をしているというだけで、興味を引かれた通行人が、次々と足を留めて眺め店内に導かれるように入ってくる。

古見さん高木さんの研ぎサービスが活況を呈してきたころ、新聞各紙の取材も訪れて、最初の緊張も吹き飛び、気がつくといつもの「与板弁」が飛び交う匠会メンバー。



特別参加メンバーの横田さん、足の指にノミの柄を挟み自在に動かして「センがけ」の技実演で大活躍。大勢の人が見入った。

故郷サポーターも次々と。入場者 1600 人！

さすが都会！ 人が来てくれるかどうかとの当初の心配をよそに、ホンモノの職人と伝統技術に関心をそそられる都会人が意外に多いという事実を発見。鍛造の工程を映すビデオ画面に熱心に見入る人々の姿。

「ふるさとからの出展というので、是が非でも行かなくてはと思って。」在京の与板人が熱いエールを送って下さる。ふるさとはありがたきかな。力強い応援団に感謝！

